本レポートは、2020 年 7 月 23 日にオンラインで行われた、えほん未来ラボ（えみラボ）主催の「旅する絵本♡会議~《絵本が旅をする》という新しい文化を創り出そう！」（参加者 80 名）の内容を加筆修正し、再構成したものです。（文中、一部敬称略）

・・・

今、75 名の方々にご参加いただいております。こんなにたくさんの方々にご参加いただけて、旅する絵本♡の可能性をすごく感じるんですけれども、詳しくは後でお話しいただきますが、絵本が旅するように、人から人へと渡っていくという、この旅する絵本♡に参加したことがある方、まだだよという方、いらっしゃると思います。参加したことがあるよという方、手を上げていただけますでしょうか？

（ありがたいですね、反応マークを押していただいてもよいですね…いらっしゃいますね、結構いらっしゃいます。ありがとうございます。）

ここからはさっそく、ドンハマ★さんにお話しいただきたいと思いますので、ドンハマ★さん、よろしくお願い致します。

【えほん未来ラボ[えみラボ]ドンハマ★】

はい、ありがとうございます。では、私の方から、お話しをさせていただきたいと思います。
今日はこの旅する絵本♡♡会議という、何だか堅苦しい名前が付いていますけれども、ゆるく楽しくやれたらなと思っています。旅する絵本♡をご経験された方もいらっしゃれば、今日はじめてという方もいらっしゃると思うんですけれども、人と人が結びついていくような、一つの仕組みになったらいいなと思っていて、今日はそれを深めていけたらいく時間になったらいいなと思っておりますので、よろしくお願い致します。

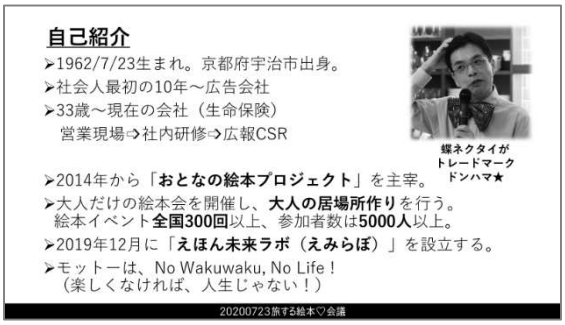
私、ドンハマ★と名乗っておりますが、旅する絵本♡をやっているえほん未来ラボの代表をやっておりまして、旅する絵本♡を発案した者です。スライドを使いながら、えほん未来ラボと旅する絵本♡について、お話しをさせていただきます。まず本日のゲストのご紹介をさせていただきます。

私のお話しの後、ゲストのスピーカーの方々にお話しをいただく予定になっております。お声出しはその時にしていただきますが、まず東京の町田で、旅する絵本♡を始めようとされている鈴木由香さん、それからニジノ絵本屋さんという絵本の販売だけではなく、絵本を作るところから、作家さんの育成なども含めて、トータル

でやられているいしいあやさん、それから共感の心が人づてにわたっていくというのは、今回の旅する絵本♡のテーマでもありますが、それを絵本ではなく、eumo という新しい通貨の形でやっていこうとされている岩波さん、この御三方にそれぞれお話しをいただきたいと思っております。

それでは、えみラボの活動と旅する絵本♡について。改めまして、ドンハマ★です。私なんと、1962 年 7 月 23 日生まれ。祝ってほしくてぶつけたというわけでもないんですが、たまたまこの日になりまして、今日は 58 回目の誕生日になりました。こんな日に、みんなで未来を考える時間が出来たら嬉しいなと思います。

キャリア的に言いますと、関西の産まれ・育ちで、途中から東京に出てきまして、10 年間は東京で広告の仕事をしておりました。今は本業が他にありまして、生命保険の会社に勤めておりまして、現場から現在は広報 CSR、キャリア教育などを主にやらせてもらっています。

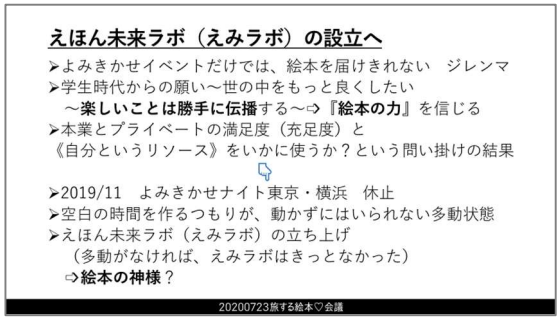


2014 年から「おとなの絵本プロジェクト」を主催しまして、絵本の活動を本格的に始めました。大人だけの絵本の会をやりまして、大人の居場所作り、そして全国で札幌・名古屋・大阪・奈良・滋賀など…いろんなところでやらせてもらい、延べ 5,000 人以上ご参加いただく、一つのムーブメントになったかなと思います。その後思うところがあり、去年の 12 月からこの「えみラボ」というものをスタートさせています。「NO WAKUWAKU,NO LIFE.」、楽しくなければ人生じゃない、と言い切りたいなと思っています。

こういう蝶ネクタイを絵本の活動をやっている時はしていまして、これがトレードマークです。「ドンハマ★」というのは、絵本の活動を始めるようになってからつけた名前です。新しいことを始めるにあたり、気分も新たにということで、「ドンタコス」的な、愛される名前が良いなと思って、いろいろあって最終的にドンハマ★に行きつきました。

絵本のことについて、私は子どもの頃、全く絵本の経験がなく、40 歳を過ぎてから子どもが生まれましたが、それを機にだんだん絵本に触れるようになってきて、地域の小学校で絵本の読み聞かせなどをやっていました。お父さんとしてやっていたわけですけれども、学校の先生らしき大人の方

が、子どものことをほったらかしているのかと思うくらい、のめりんで聴いていただいたことがあって、「子どもも絵本が楽しいが、大人も絵本が楽しいんだ」と再認識しました。だったら、「大人×絵本×美味しいご飯（お酒が飲める人は飲みながらなど)」など、そういう思い付きで「よみきかせナイト」という大人向けの読み聞かせの会を、6 年前にスタートしました。



それをえみラボに切り替えた理由は、「絵本はありとあらゆる人に良いものだ」と改めて思い、絵本を手に取ったことが無い方、あるいは日々の暮らしの中で「面白くないな~とか、希望が見いだせないな~」と思っている方にも、絵本が届いて、それが一つのきっかけになって、「こんな世界もあるんだな」「自分もこんなことをやってみようかな」など、前向きな気持ちになってくれたらいいなという想いを持っていたわけですが、読み聞かせのイベントだけですと、そういう方に絵本を届けることが、なかなか難しいということに気づきました。楽しいことをやって、充実しているんですけれども、もっと届けたいところに届かない…このジレンマをずっと抱えていて、「今のままでは無理だな」と思いました。

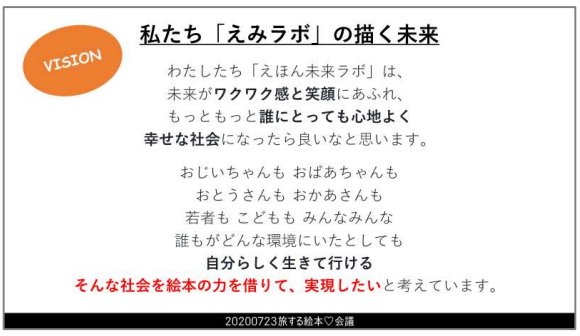
私自身が学生時代、世の中をちょっとでもよくしたいなという気持ちがあり、いろんなことをやっていたんですけれども、なかなかうまくいかない…なぜかというと、「こうあるべき」という「べき論」をかざし、周りに求めていたので、一度は出来ても、二度はないというか、自分もだんだんしんどくなる…そんなことを繰り返していました。

そんな中で絵本の活動を始めたら、いろんなところに広がったと言いましたが、例えば、札幌に「これをやってください！」とお願いに行ったわけではなく、地域の人が、「こんな楽しいことだったら私たちもやりたいんです」とご連絡をいただき、それぞれでやっていただくようになりました。ということは、「楽しさ」や「ワクワク」が、物事が広まっていくにはとても大事な要素だなと感じました。そこで私は、絵本の力を信じて、世の中を良くするための活動をひろげたいなと思ったわけです。

絵本は、プライベートでの活動ですが、プライベートだからこそ、ジレンマを抱えたままでいるのでなくて、より満足できる時間の使い方をしたいと強く思いまして、楽しくはやっていたんですが、私が中心に行なってきた東京・横浜での大人の読み聞かせの活動は、一旦閉じるに至ったわけです。

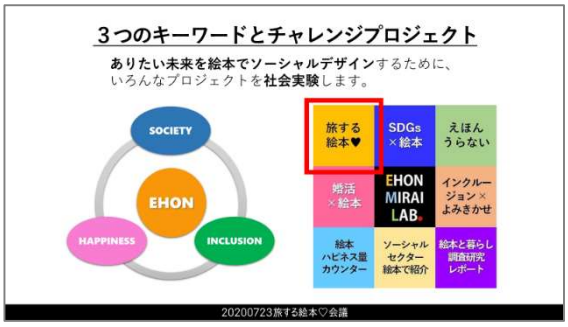
その後、しばらく何もしないつもりでしたが、根っからの多動と言いますが、落ち着いていられない状態になってしまいまして、翌月 12 月には、えほん未来ラボ（えみラボ）を立ち

上げてしまいました。この 2 月、3 月に発生したコロナの影響で、えみラボのイベントも大きなものができなくなったという、ツライこともありましたが、もし 12 月に立ち上げていなければ、えみラボ自体がこのコロナの状況下で立ち上げられなかったでしょうし、旅する絵本♡もこんな風に広がることは、あり得なかっただろうなと思います。やはり、《絵本の神様》はどこかにいて、導かれているような気さえします。



えみラボは何を目指しているのかと言うと、これが我々のビジョンですが、「未来がワクワク感と笑顔にあふれ、もっともっと誰にとっても心地よく、幸せな社会になったらいいなと思います。おじいちゃんもおばあちゃんもお父さんもお母さんも、若者も子どももみんなみんな、誰もがどんな環境にいたとしても、自分らしく生きていける。そんな社会を、絵本の力を使って実現したい」と考えております。

ですから今日、おいでいただいた皆様もそうですし、皆さんの周りの方々もそうですし、みんなみんな自分らしく生きていける…そういう社会を、私たちは絵本の力を借りて出来ないかなと考えています。それを一言で言い表すと、「ありたい未来を絵本でソーシャルデザインする」と、少し難しい言い方をしていますが、これまでの絵本の世界ではしてこなかったチャレンジをしたいなということもあり、こんな表現にしています。どんどん新しいことに挑戦して、社会実験しようということです。



社会のハピネス（幸せ）、最近では well-being に近いかなと考えていますが、幸せな自分の感覚、それからインクルージョン、誰もが主役であるということを、絵本中心でやっていきたいのですが、具体的にやっていることは、これらのプロジェクトになります。

一つ一つお話しすると時間がないので、今日は旅する絵本♡についてフォーカスしてお話ししますが、他に SDGs、占い、婚活など…およそ絵本と関係の無さそうなことを結び付けて、何が生まれるのか…こういうことを、どんどんやっていきたいと思っているわけです。

旅する絵本♡も、その一つになります。旅する絵本♡は、新たな流通の社会実験などとも言うのですが、絵本のもともとの物語と、誰かが誰かに手渡す時に生まれるもう一つの物語…その二つの物語を同時に乗せて、絵本が旅するように人から人へと手渡されていきます。買うでもなく、借りるでもない…これが旅する絵本♡という新たな流通方法の社会実験でもあります。

モノとしては、旅する絵本♡のシールを絵本に貼って、その中に説明書きみたいなものもあるのですが、ポケットに図書カードのようなものを入れて、どんどんそれが人伝にわたっていきます。カードには、受け取った人が順々に本の感想を書いていきます。そうすると、このカードを見た人は「これまでにこの本を読んだ人は、こんなことを感じたんだな」と思って、温かい気持ちになるかもしれませんし、自分が旅したような気分になるかもしれません。

本が物理的にが行き渡ると言うことと同時に、手渡しであれば会話が生まれるし、読み聞かせもなされるかも知れませんし、二人の間に新しいストーリーが生まれる…そういう人と人の共感のストーリーがあれば、素敵だなと思います。

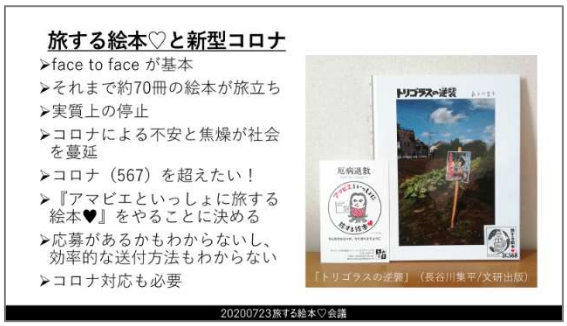
なぜ始めたのかというと、私の家におよそ 1,000 冊の絵本があり、読み聞かせの会をやめるとなると、「この絵本たちはどうなるだろう…このまま陳列されているだけは、絵本たちにとって死んでしまうのと同じでは？」と思っていました。

絵本は、形・大きさ・内容もバラバラで、個性的な一人一人の人間のようだと私は感じます。この「人」がドンハマ★の家で、そのまま眠ってしまうと、コレクターとして眺める分には悪くはないですが、本来読んでもらってなんぼのはずの絵本が『死んでしまう』と思いました。だったら何か生きる道はないかと考えた時に、手を離れて人伝にいろんなところにいく、そんなこともありなんじゃないかと思いました。

仮に 1 冊の絵本が 10 人の人に渡れば、10 倍の効果が生まれますので、うちにある 1000 冊は、1 万冊の絵本と同じ効果になるのではないかと考えました。ですので、個人が所有するということも決して悪いことではないし、私個人もそういうことに興味関心があったわけですけれども、これを社会資本にしてしまおう、世の中の本にしてしまおう、と考えました。「可愛い子には旅をさせよ」という気持ちで、やりだしたと言うことになります。

やり始めた当初から、「Face to Face」で渡すことを基本にしていました。ところが、コロナの状況下では、手渡しということができなくなってしまいました。それまでに 70 冊ほど絵本が旅立っていたのですが、自分自身もコロナの状況下にあって、時間の過ごし方が変わってしまったし、多くの人が人と会えない、外にも出れない状況で、不安は消えない…そういう焦燥が皆さんにも蔓延していたと思います。

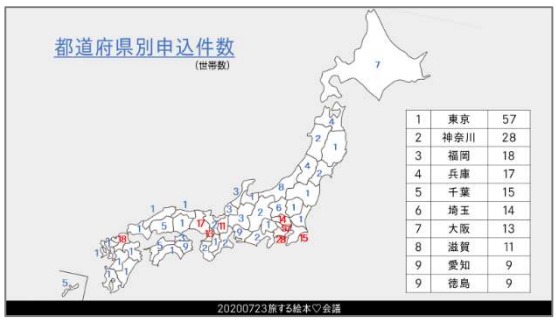
この状況を少しでも打開したいなという気持ちで、だじゃれですが「コロナ」は「567（コロナ)」と表すことができるので、それを超えるために「568 冊の旅する絵本♡」を送ったらどうだろうと思いつきました。尋常じゃない数という気持ちが勝り、躊躇する気持ちが最初は強かったのですが。今しかできないなという気持ちに変わり、やることを決めました。



最初は、実際にどれだけ応募があるかわからないし、梱包とか、送り方とかも良くわからないし、「コロナウイルスがついていたらどうしよう」と思う人もいるだろうし、いろいろ不安もありましたが、そういうことも WEB ページで応えするなど工夫しながら、とりあえずやってみようということで始めました。結局、570 冊の絵本を、アマビエのイラストを描いたポストカードを作って、一緒に送りました。

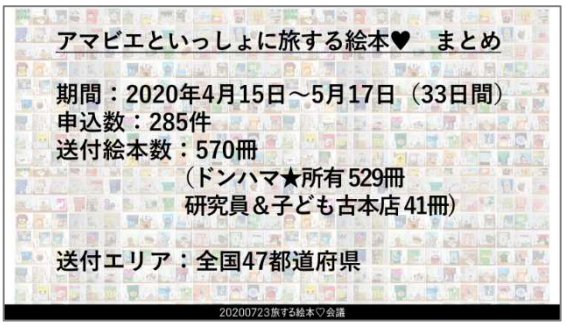
応募開始は、4 月の中旬ときめ、最初は旅する絵本♡に興味のある方から申し込みがありましたが、申し込みの無い日もありました。と思えば 40 件申し込みがある日もあったり…。私も毎日「今日はあるのかな、無いのかな」とちょっと戸惑いながら、過ごしていました。4 月下旬から送り出しを始めて、順次お喜びの声をいただけるようになりました。

私にも本業があり、StayHome の状況もしばらくすれば解消し、GW 明けには、会社に行くことも想定していましたので、期間としては、約 3 カ月、つまり今日(7/23)くらいまでかけて送り終わればいいかなと思っていました。その時点では、遅くとも 3 カ月あれば、コロナは終息するだろうという世間のムードでしたので、「コロナ終息してよかったね」みたいなイメージで企画は終わると思って始めたのですが、4 月の緊急事態宣言とともに図書館が閉まり始め、4 月中旬～5 月の GW にかけて、ほぼすべての図書館が閉まっている状況…学校も休校中で、子供たちが触れる本も自宅にあるだけでは足りないので、新しい本が手元に欲しいというお母さんの声もたくさんありました。結局、わずか 1 か月で目標の 567 冊を超えることになりました。本当にありがたいです。



申し込みの際のアンケートでは、子どもと一緒に読みたいという声がほとんどでしたが、大人同士でも読みたいですとか、一人でじっくり楽しみたいという方も結構いらっしゃいました。全国からたくさんお申込みをいただき、47 都道

府県にお送りすることができましたが、首都圏・関西を中心に、新潟や徳島、沖縄など、地域ごとにポツポツと増えていきました。地域のママさんコミュニティで評判になったり、影響力のある方がブログで書いてくださり、「だったら私も！」と申込が殺到したりなど、たくさん応募をいただきました。33 日間 285 件（1 件につき 2 冊）をお送りしました。傾向の違うものを 2 冊送れば、どちらかは気に入っていただけるかなと思い、お送りしました。ほぼ私の家の絵本をお送りしたのですが、協力していただけるメンバーや古本店さんからも絵本を寄贈いただいたりしました。



ホームページの方でも記載しています（アマビエと旅する絵本♡のページ）が、小さいお子様からたくさんのお声をいただきました。「郵便局さんが来たら、『ボクのが届いた！私のが届いた！』と子どもたちがみんな大はしゃぎたった」とか「子どもにせがまれて、何度も読んでいます」など、喜びの声をたくさんいただき、嬉しく思っています。本日ご参加いただいている中にも、申込いただいた方もいらっしゃると思います。

特にご紹介したいのは、沖縄のカフェオーナーの方のお声です。最初「営業自粛をして、気分も落ち込んでいた時に申し込みました。ドンハマ★さんの行動力に刺激を受けました。何か自分に出来ることはないか」というメッセージをいただきました。その後、またやり取りがあったのですが、絵本が届いた後、子ども食堂を始められて、地域の子どもたちを触れ合う場を作り始めたというご連絡もいただきました。絵本を通して、いろんな人が元気になったのかなと思うと、やって良かったなあ~と思います。

今、全国で、旅している絵本は 650 冊です。これをもっと増やせないかというのが、今日のテーマです。旅する絵本♡という新しい文化を作りたいと思っています。

以上、ドンハマ★からのえみラボの活動と旅する絵本♡の現状についての話でした。お聴きいただきありがとうございました。

（MC）ここから、ゲストトークに移らせていただきます。まずは、鈴木由香さん、よろしくお願い致します。

【まちだ旅する絵本：鈴木由香】

初めましての方もお会いしたことがある方もいらっしゃいますね。町田市で絵本の活動をしています、鈴木由香です。
今日は、まちだ旅する絵本♡の活動立ち上げスタッフとして、お話しに参りました。どうぞ、よろしくお願い致します。多少緊張しておりますが、頑張ってお話しさせていただきます。
まずはドンハマ★さん、お誕生日おめでとうございます。ご縁あって、このおめでたい日にお話しさせていただくのですが、私は「絵本好きな大人」です。

普段は市内の保育園で子育て支援の担当者として 17 年勤務させていただいています。保育園で働くというと、「何組の先生」というイメージをお持ちだと思いますが、町田市は保育園が地域の遊び場になっておりまして、保育園や幼稚園に入園するまで、保育園で子育て広場という形で、子育て相談や遊びに行けるシステムとなっています。そこの担当者として働いています。子どもにも、お母さんにも絵本を読むことを楽しみに仕事をしています。

絵本が好きすぎて、「絵本セラピスト®」という資格に出会い、取得しました。絵本を作った場づくりで、「みんなが笑顔になって楽しい」という体験をして、絵本セラピーというワークショップ以外にも、様々な絵本を使った場づくり活動をしていました。

3 年半前に、町田のパリオという老舗の駅ビルに、「モリノこども図書館」という無人の図書館があり、そこは読み終わった本をそこに置き、そこにある絵本と交換できるという場ができました。スタッフの方とお話しすると、感銘を受けました。ところが、その存在が町田市民にあまり知れ渡っていないということが分かり、こんな素敵な場所に、こんな素敵な本があるんだったら、みんなに教えたいなと思い、「モリノこども図書館」の応援隊長になりました。

3 年半が経ち、旅する絵本♡については、ドンハマ★さんの SNS で存じ上げていましたが、ドンハマ★さんにお会いするまでに、インフルエンザやコロナの時期がありました。モリノこども図書館も、いろんな図書館が閉鎖させる中で、本棚だけさわれる状態も危ないのではという配慮のもと、本棚も閉鎖することになりました。2 階のエレベーターホールに置かれているのですが、そこにあった本が、倉庫の中で眠りにつくことになりました。その時、空っぽになった本棚の存在と、絵本の存在がどうにかして役に立たないかと思っていました。

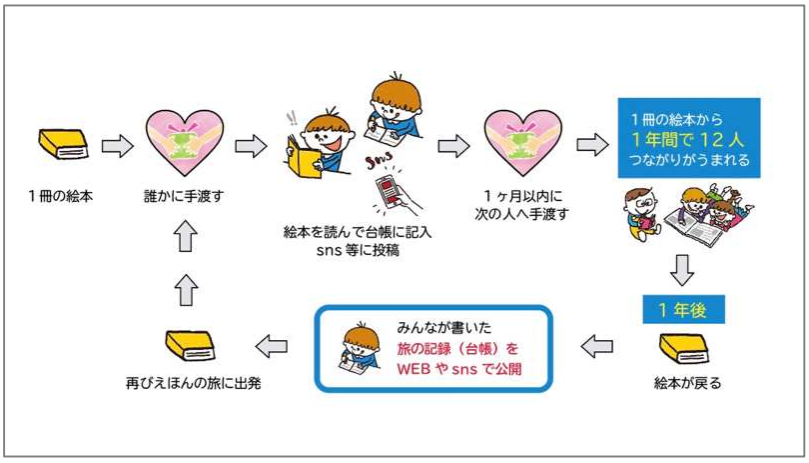
そうすると、私の主催する「モリノおとな絵本部」という、モリノこども図書館を大人に広める活動をしている団体があり、そこに参加している方々が、どうやらドンハマ★さんの旅する絵本♡を受け取ったとか、誰かに渡したとか、そういった話題をきかせてもらいました。

その時に、参加していて、これからも一緒に活動することになっている浦部と私が、その活動に感銘を受けました。浦部は、「町田という町が、もっと人と人がつながれたら素敵だな、絵本が好きだ」という気持ちがありました。私は、「このお休みしている絵本が旅立ったら、なんて素敵なんだろう」と思いました。すぐにドンハマ★さんに連絡をとらせていただき、「町田でやらせてください！」と直談判をしました。ドンハマ★さんからは即答で「どうぞ」というお返事をいただき、今に至っています。

私たちは 4 名で活動しています。絵本の専門家でもないし、町をプロデュースする専門家でもありません。一市民が、それぞれ「本を通じて」「読書のすばらしさを伝えたくて」「パリオを使って、町田でイベントを主催するイベンター」という、奇跡の 4 人の集まりです。4 人の共感を集めて、さっそく行動に移りました。

6 月の末、町田市で活動を支援する助成金の締切日がありました。「ぜひ助成金をいただこう」というところで、3 週間で助成金の申請に至り、今に至ります。おそらく通るだろうという状況ですが。8 月のアタマには助成金が入り、活動を活性化していこうと思っています。浦部がホームページの作成に取り掛かり、他のスタッフは絵本の寄付を募ったり、どこで絵本の受け渡しを行なうか、という行動を起こしています。（現在、町田市の文化プログラムにも認定され、助成金受給も決定）

町田という町は、人口 43 万人の細長い形をしております。そして、川崎が入り組んでいたりなど、その地区を超えて活動をすることが難しい町です。福祉のまち、育てやすい町と言われているのですが、いろんな世代や立場の人が一つに繋がるような、象徴的なイベントがないことも特徴の一つです。この旅する絵本♡が、町田で一つの特徴となるような…このデコボコした町が、絵本が旅することで、絵本の力で、人と人が出会い、繋がることにロマンを感じ、ワクワクしています。旅する絵本♡の仕組みは、ドンハマ★さんの仰っていた内容を基本にやっていますが、町田は独自の仕組みを考えています。



1 冊の本を手渡す、コロナの状況下で心配であれば、郵送も可能。ドンハマ★さんの仕組みと大きく違うのは、1 年旅した絵本は、一度パリオに戻ってきてもらうというところです。そして、旅した絵本のログをとるというところが大きく違うかな、と思っています。町田の地理的な特徴から、横浜市や相模原市などに、飛んだりもすると思います。本に付ける記録カードには、枠を 12 個設けて、最後の方は町田のパリオに返却してもらうというルールを加えました。

私たちが旅する絵本♡をいろいろ考えた時、コロナで図書館の閉館をはじめ、いろんな活動が制限されていく中、イラストレーターやイベント会社やアーティストなど、いろんな困難をかかえたと聞いています。そういう方々のつながりになったり、本を買ってくれたり、絵本業界が元気になったらいいなという風に思いました。

その象徴として、まちだ旅する絵本♡のロゴを、赤ちゃん絵本のパイオニアで有名な町田在住の絵本作家さんである新井洋行さんと中垣ゆたかさんにコラボしていただき、作成してもらいました。このロゴを象徴として、いろんな人に愛される活動をしたいと思います。以上、発足の経緯と現状の活動報告とさせていただきます。目標は 1 年間で 500 冊、多くて 1,000 冊を旅立たせたいと思っており、絵本の寄付をお待ちしております。本日ご参加の方、もしご興味ございましたら、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

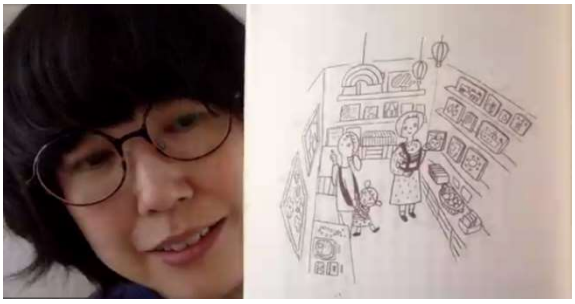
（ドンハマ★）
鈴木由香さん、ありがとうございました。このまちだ旅する絵本♡に対しての熱量が伝わってきました。8 月スタートということなので、助成金の受給決定より先にお話しをいただきました。由香さん、旅する絵本♡がうまくいく秘訣があるとしたら、なんだと思いますか？

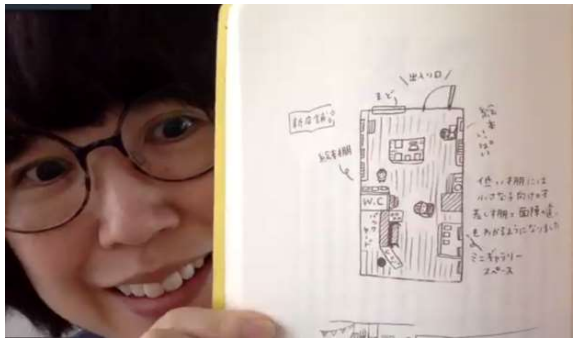
（鈴木由香）
スタッフの思いの強さ、スピード、行動力…ですね。

（MC）それでは続いて、いしいあやさん、ご登壇お願い致します。

【ニジノ絵本屋：いしいあや】

初めまして、東京都目黒区で「ニジノ絵本屋」という本屋を 10 年間経営し、8 年前から自社制作で絵本を出版、絵本の読み聞かせイベントなどをしています、いしいあやと申します。イベント事業というと少し大げさですが、絵本で楽しい場づくりということを続けております。ここ数年、ようやく仕事として成立してきました。





「ニジノ絵本屋さんの本」という本を、2 年前に西日本出版社から出版させていただきました。今日はこのイラストを使って、ニジノ絵本屋について、説明させていただきます。本日ご参加の方々の中にも、ニジノ絵本屋にお越しいただいた方もいらっしゃると思いますが、実は現在開店しているのは、3 年前に引っ越した 2 号店目になります。2011 年に都立大学駅の雑居ビルの 3 階で 1 号店目を運営していました。1.5 坪の小さなお店でした。ベビーカーが 1 台入ると、バックして出てもらうような大きさです。今の店舗を知っている人も、1.5 坪の 1 号店目を知らない方が結構います。そんな小さな店舗でしたが、3 年前にご縁がありまして、7 坪の路面店に引っ越すことができました。7 坪でも小さなお店ではありますが、お店の中でもイベントができるようになりました。
ニジノ絵本屋はオンラインショップも運営しているのですが、元会社のサーバがダウンしてしまい、今朝はバタバタしておりました。

松田奈那子さんの「ふーってして」（刊行：KADOKAWA）の原画展が、昨日リリース初日を迎えました。コロナの状況下で店舗への来店を促すことが難しい中、オンラインと連動して特設サイトを作ることで、来れない方でも楽しんでもらえるような仕組みを準備してきました。ところが、12 時のリリースとほぼ同時にサーバがダウンし、特設サイトが使用不可となりました。本来であれば昨晩に来月リリース予定の「かわいいことりちゃん」の絵本の特設サイトのオープン日でもありましたが、再度サーバがダウンしてしまい、本日の朝に

その作業を行なっていたため、ドタバタしておりました。
オンラインの怖さは、「自分でどうにもできないこと」が多いことだということを、昨日今日で実感しています。3 月以降、ほとんどのイベントが中止となり、オンラインに切り替えたのですが、ニジノ絵本屋はそれ自体が旅する集団と言えるほど、いろんなところに出張にいかしていただいていました。私や私の仲間は、絵本の仕事をするようになってから、いろんなところに行くようになりました。そういった活動が現在出来なくなってしまい、「何ができるだろう」と考え、オンラインに踏み切りました。

5 月は ZOOM を使った配信番組を毎朝配信していました。6 月に入り状況が少し変わり、配信頻度を少し減らしていきました。7 月になると、参加者の皆様もだんだん外に出ることも多くなってきたようで、週 1 回ほどの配信頻度となっていきました。オンラインには、海外に住んでいる日本人の方を含め、いろんな人が同じ条件で参加できるという素晴らしさがあると感じています。みんなで集まれない状況は良いものではないですが、この状況だからこそ取り入れることができたオンラインサービスは、コロナが明けたとしても、続けていけたらと思っています。

私は去年 1 年間、体調を崩していて、ほとんど入院療養生活を余儀なくされていました。現在も肺の病気があるため、ほとんど外出ができない中、オンラインで出来ることがあるということが、健常者でも病気の人でも、条件を等しくサービスを提供してもらえるんだな、ということを実感しました。現在、自宅からしか発信ができない状況ではありますが、逆に家にいながら世界とつながることができることで、旅をしているような実感すらあります。
そして、そういうものを提供していけるような存在でありたいと思っています。

（ドンハマ★）
ありがとうございました。旅する絵本♡について、どんなイメージはありますか？

（いしいあや）
旅する絵本♡は、交換日記や文通に近いものがあるのかなと感じています。
私は本屋さんと出版社、両方の立ち場をもっているので、1 冊の本の続きを考えます。1 冊の本が 50 人に回る場合、本来 50 冊売れるはずだったわけで、そこはどうすればいいか、と考えたこともあった。ただ、本当に必要だ、本当に好きだと思った人は、旅する絵本♡でその本に出会った人が買ってくれることもあるはず、と思うようになった。そういう「本との新しい出会いの形」という可能性も秘めているんだなと思いました。

（ドンハマ★）
ありがとうございます。実際にそういったことが起こっています。旅する絵本♡は、一ヶ所に留まらないような仕組みを作っています（シールを貼るなど）が、「気に入ったらぜひ買ってください」という文言も記載しています。アマビエの企画では、受け取った絵本を誰か

に渡す時、「この本を気に入ったので、買いました」という方は何人もいました。あるいは、最初に本を送り出す人は、「自分の大好きな絵本」を送り出すので、寂しくなってまた買う、という人もいます。そうやって、絵本の業界全体がもっと潤っていく仕組みとして、旅する絵本♡が機能したら嬉しいなと思います。何かご一緒できることがあればと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

それでは岩波さん、よろしくお願い致します。

【株式会社 eumo：岩波直樹】

こんにちは、岩波直樹と申します。
ドンハマ★さんにお誘いいただき、本日参加させていただいておりますが、実は私は絵本のマニアではありません。旅する絵本♡というコンセプトは、とても素敵だなと思っています。

私は今、株式会社 eumo という会社で、「共感資本社会をつくろう」という活動をしております。最初の仕事は銀行員でした。銀行では、「世の中のビジネスやお金の流れや合理性」を学ぶことができました。すごく感謝しているのですが、楽しそうに働いている人はあまりいませんでした。学生の頃から、楽しいことが好きな私は、社会貢献度は感じつつも、楽しさに欠けると感じていました。

銀行では、いろんな会社様を見ることができたというのが、大きなメリットでした。一人で何十社とみている中、本日の皆さんのように「ワクワク感から立ち上げて、結果として事業となっている会社」もあれば、「市場調査を行なって合理的に利益を出そうとする会社」もありました。いろんな会社をみて、そこで働いている人の生きがいややりがい、ワクワク感というのが増えたら、世の中はもっと良くなるのではないかと思い、2002 年にワークハピネスという会社を共同設立しました。『知之者不如好之者、好之者不如楽之者』(これを知る者はこれを好む者に如かず…)、つまり「頑張っている人は好きでやっている人に敵わない、好きでやっている人も、楽しんでやっている人には敵わない」という、世の心理にならって、「楽しんで働いている人」を増やすべく、会社を設立しました。

働いている人がワクワクすることができて、事業化するための工夫を、人材開発や組織開発という分野でやってきました。やっていくうちにいろんな壁にぶつかりました。大企業は株式をはじめ、市場に縛られざるを得ないようにできています。つまり、社会全体の仕組みが、資本主義の色が強すぎるため、世の中の仕組みそのものが変わらなければ難しい状況まで来ているという結論に、10 年ほど前からたどり着いています。

そんな状況で、我々に何が出来るんだろうという命題の前で、仲間たちとは繋がりながら、数年前に、株式会社 eumo という会社を新井さんが立ち上げて、「共感を資本に動ける社会にしよう」と活動を始めました。

今の世の中は「お金が無いと動けない」「合理性を追求することが正しいことである」という前提が強いため、「ワクワク感」をもとに動こうとしても、なかなか動きづらいと思います。ここ数年は逆にそういう人が増えてきて、コロナによって背中が押されているんだなと感じています。そういう「みんなが面白いと感じ、ワクワクして集まり、物事が動かせるような社会」、つまり「共感資本社会」をつくろうとしているのが、株式会社 eumo という会社です。その中の一つの取り組みとして、新しい通貨をつくり、7 月からリリースしました。興味のある方はアプリで「共感電子通貨 eumo」とお調べいただき、ぜひダウンロードしてみてください。

お金は貯めることができ、腐らないので、お金自体が目的化しやすい世の中です。本来はお金そのものに喜びはなく、お金で何かを買ったり、お金でイベントに参加したりすることで幸せを感じるわけですが、何に使うのかを置いておいて、とりあえず貯めることが目的になりやすいわけです。本来は「手段」であるはずのお金が、貯めれば貯めるだけ増えるという仕組みになっているため、「お金獲得合戦」になってしまっています。

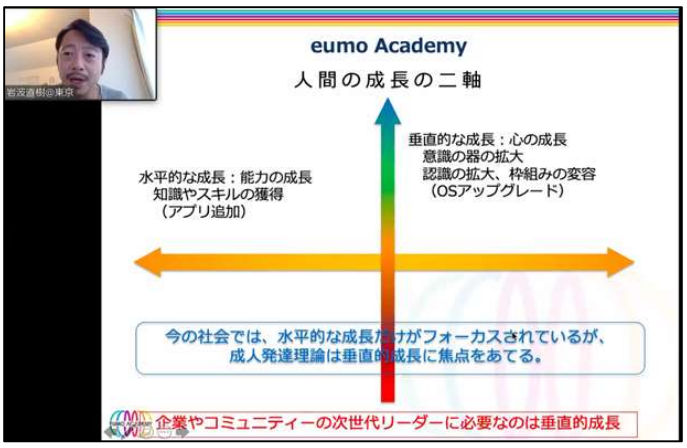
私たちの新しいお金の定義は、「腐るお金」「出会いが創出されるお金」です。期限がついているお金であれば、皆さん使いますよね。コロナによって、ベーシックインカムという文脈もあるが、貯め込めるお金でベーシックインカムという概念は通用しません。皆さん貯めこんでしまいます。腐るお金にして、皆さんが消費することを促すために、共感が生まれる場の設定やそういう人達がいる場所での消費による共感の連鎖を生みたいと思っています。そこでお金を使うということは、何らかの共感が生まれている、というお金です。このお金の流通が増えると言うことは、世の中の「共感資本」が増えているという仕組みをつくろうとしています。

等価交換と言われる「これはいくらです」と決まっている現代社会では、金額換算をします。プレゼントをもらっても、「これはいくらのモノで、いくらのモノでお返ししよう」と調べたりしてしまいます。ギフト出来るという仕組みはとても重要です。期限が決まっていれば、「そのサービスが素晴らしいから」という共感で消費が出来る、という仕組みなわけです。

実はそうすると、経済循環が活性化します。そしてお金に色を付けることで、どういうルー

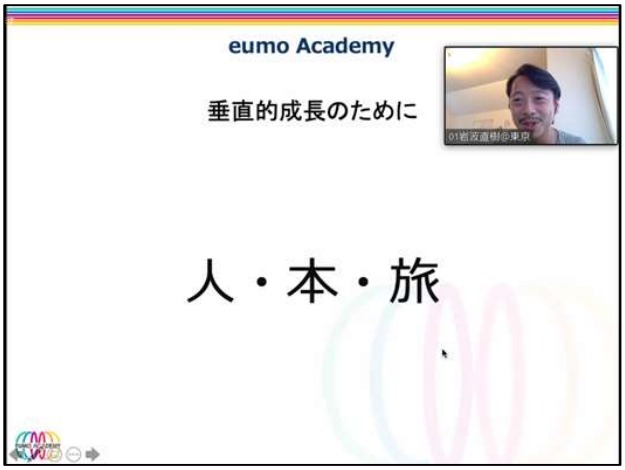
トでお金が回ってきたかが分かります。旅する絵本♡に図書カードのようなものをつける行為と同じで、そこに言葉を乗せることができればいいなと思っています。そういったことができる通貨が、共感資本通貨 eumo です。世の中全体がこの通貨になればいいなというわけではなく、価値交換の手段の一つとして、こういう通貨があった方が良いですよね、という提案です。

自分の財布のなかに、法定通貨がたくさんあるが、10%くらいは eumo でやり取りしています、eumo を使える場所には、こういう仲間がたくさんいるところです、と言えるように、どんどん広めていくのが、eumo の活動です。そして、ドンハマ★さんの考え方や旅する絵本♡の概念と非常に似ているなと感じ、本日お招きいただいたという経緯です。



もう一つ、eumo アカデミーというアカデミーを実施しています。人の視野が資本合理性のみになってしまっているので、人間的成長がとても大事です。人間的成長には 2 軸あり、能力・知識の獲得と、そして心の成長（認識の拡大）です。見える世界が変わったり、大事にしたいものが変わったり、自分を突き動かす欲求の源泉が変わってきたりなどが、心の成長です。現代社会は、すぐお金になるようなことの知識やスキルが、教育の大半を占めていて、この教育だけだと、人は心の成長をしないわけです。というわけで、心の成長が出来るような場の創出、出会いの提供を目指しています。

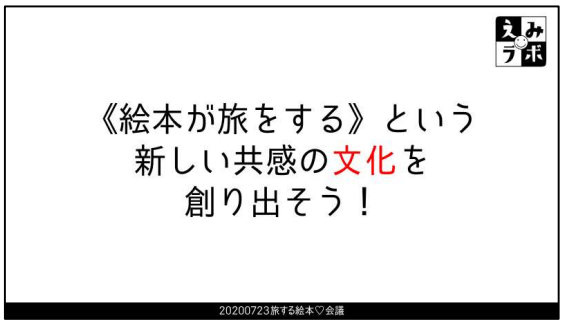
共感資本通貨 eumo をつかうことで、より心の成長に繋がるような仕組みになっています。アカデミーのテーマは「人・本・旅」です。人はどうしたら成長するのか…それは、いろんな価値観の人や本と出会うことです。そして旅をして、いろんな土地のエネルギーを体で感じることです。こういったことを通して、人は心の成長を獲得していきます。旅する絵本♡には、間違いなくその心の成長要素があると思っています。ドンハマ★さんとそういった共感を通じて、約半年間で 650 冊以上の本や町田での新しい仕組みの発足など、共感の輪が広がっていることが素敵だなと感じています。



（ドンハマ★）
岩波さん、ありがとうございます。
eumo の考え方自体に私も共感していまして、普通、絵本の文脈では、こういった eumo のような通貨の話もなかなか出てこないわけですが、岩波さんのお話を聴いていただいて、我々のえみラボのやろうとしていることの意味も少しご理解いただけたのではないかと思います。

時間が想像以上に押していますので、大変申し訳ないのですが、4 人でのクロストークは、割愛とさせていただきます。

さて、ここまでで、えみラボの活動や旅する絵本♡について、いろんな角度から感じていただけたと思います。それを踏まえたうえで、このえみラボの活動を文化にまで昇華させるにはどうしたらいいか、私がたたき台を作成しましたので、お話させていただきます。



「絵本が旅をするという新しい共感文化」を形成するにあたって、まずは「文化」というものについてです。学問的に追及したわけではありませんが、「知ってもらった」だけでは、文化にはならず、時間軸が大事になってきます。認知されて、時間が経ち、浸透していくことで文化として成り立つわけです。絵本でそれを考えた時、「ミリオンセラー」というものに注目してみました。

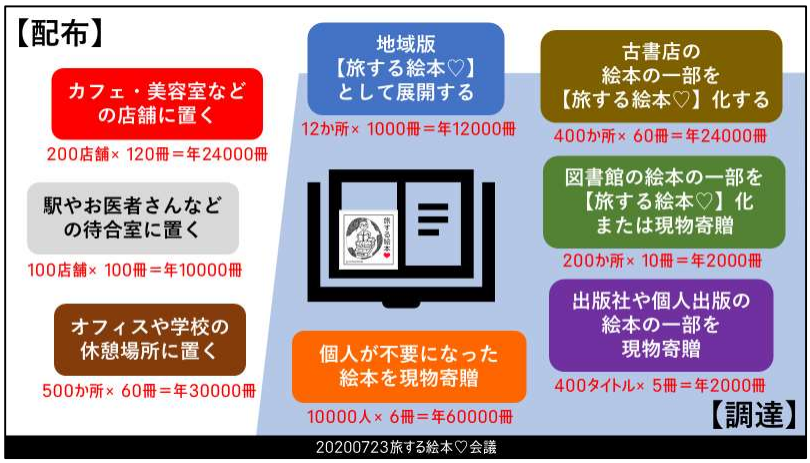
絵本の「いないいないばあ」「はらぺこあおむし」「だるまさんシリーズ」など、絵本に興味のない人でも知っているような、非常に著名な絵本があります。こういったミリオンセラーと呼ばれるものをもとに考えると、「100 万」という数字を意識することは大事だと考えました。最短のケースですが、「だるまさんシリーズ」は 10 年ちょっとでミリオンセラーになっているということを考えると、少なくとも 10 年は必要という印象を持ちます。ここから考えると、年間 10 万冊の旅する絵本♡が 10 年間旅し続ければ、それは文化と呼べるのではないかと思いました。ですので、それを実現する仕組みを作ることが大事だと考えました。

当然、その年 10 万冊の絵本を《どこから調達するのか》《どこへ配るのか》という問題がありますが、例えば今回、町田が新しく発足し、500～1,000 冊という目標を掲げていただいていますが、こういった地域ごとの展開をいろんな地域でやっていくのも良いですよね。

調達という視点でいえば、あるいは大手古本屋さんの在庫から寄贈いただいて、展開することも考えられます。図書館の本の一部（廃棄本）を活用することも考えられますね。あるいは、自費出版もですが、出版社さんが販促のために配布するものの一部をいただいたり、返品されたものを在庫処理しなければいけないときに譲り受けるなども良いですね。そして、子育てが落ち着いて、絵本が不要になった個人から譲り受けるということも良いと思います。おそらく、町田の旅する絵本♡の仕組みでも、こういった調達経路をたくさん使うことになると思います。

「どこに配るのか」については、もちろん、個人に配っていくことが基本形だと思いますが、カフェや美容室などの店舗に置いてもらって、自由に持って行ってもらったり、駅やお医者さんの待合室、ショールームなんかでも良いと思います。オフィスや学校においてもらっても、休憩室に読むなどの憩いの場の提供になるのも良いですね。

妄想なので、根拠があるような無いような話なんですが、これを数字に落とし込んでいくとすると、町田のように地域ごとの展開拠点が全国で 12 か所出来れば、12,000 冊の旅する絵本♡が出来ます。



古本屋さんの大手チェーンは全国に 800 店舗、うち直営店は 400 店舗ありますが…ここが月 5 冊ずつ旅する絵本♡に寄贈していただければ、年間 60 冊×400 店舗で、24,000 冊が旅する絵本♡になります。

またハードルは高いですが、公共図書館の一割くらいから除籍本を譲り受けて、旅する絵本♡に仕立てていくというのも良いと思います。

新刊の絵本についていえば、年間 2,000 タイトルが出版されているらしいので、その 2 割を旅する絵本♡にできたら良いなと思います。

また、協賛していただける個人 10,000 人から年 6 冊を譲り受ければ、60,000 冊になります。年間の出生数が 100 万を今は切っていますが、それでも約 1 %がご参加いただくだけで、10,000 人と言う数字は実現できますので、けっして不可能ではないと思います。

「置き薬」「置き菓子」といった、オフィスで自由に使えるサービスがありますが、そんな

風に自由に絵本を持って行って良いよという仕組みを本棚ごと置いてしまうようにできれば、これらを合計すると年間 100,000 冊も決して夢物語とも言えないなのではないかと思います。私一人ではできませんが、多くの方にご協力いただければ、できなくはないのではないかと思っています。

そして、「アプリを活用した旅する絵本♡活用システム」があれば、GPS で絵本を追いかけることができたり、バーコードを読み取ることで「誰がどこに本を送った」といった情報が共有されたり受け取った方からのコメントが共有されたり、円ではない通貨、例えば eumo さんとかでも良いと思うんですが、それが溜まったり、ポイントが溜まって、そのポイントで絵本が買えたりなど、いろんな形がありえると思います。

以上、まだまだ妄想ですが「絵本が旅をする新しい共感文化の形成」の話をさせていただきました。ありがとうございました。

（MC）
さて、ここからは各チームに分かれて感想などのシェアをしていただきます。可能な限り、お顔出しをお願いします。各チームにはファシリテーターが入って進行させていただきます。それでは、グループごとの活動をお願い致します。

【各ブレークアウトルームにて意見交換】
※以下一部を記載

（ドンハマ★）
自分の蔵書を手放すのは、苦渋の選択だったんじゃないかというご質問を良くいただくんですね。正直、最初は、自分にとってこれは必要ないかな？という本を中心に旅させるイメージも持っていたんですけど、いざやり始めてみるとやっぱり自分の気に入っている本を他の人にも読んでもらいたいという気持ちが強くなる。ちょっと「もったいない」という気持ちも起きましたが、「アマビエ」の企画で何百冊も出しているうちに、途中からはそういったことを考える余裕もなく、一種に作業のような感じになって、気が付いたら数百冊の絵本を送ってしまっていたということになります。

その結果なにが起きたかというと、「自宅で眠っていた数百冊」が生き返ることになりましたし、こういったイベントを起こすことができたということも含め、私自身が予想もしなかった多くのもの手に入れることができましたということですね。もし躊躇して、送るのを止

めていたら、こういうことは起きなかった。

モノを所有すると、そのモノに対する愛情も当然あるし、お金であれば失う不安もあります。つまり、手放すことに対して不安が先立ちと思います。そこを、「手放しても大丈夫なんだよ。それ以上の何かを手に入れることもできるんだよ~」ということを、体験してもらうことも含め、そこをどういう風に分かってもらうのかが大事に思います。

町田の試みは、えみラボの旅する絵本♡全体としても、その後の展開を占うような大切なアクションだと思っているのですが、そのあたりどうでしょうか？

（鈴木由香＆スタッフ）
モリノ図書館の 3 年半で、本当にいろんな葛藤がありました。新品を買ってまで寄付をしてくれる人がいる中で、自分は、古いものを持ってきて、新品をどっさり交換しようという人もいて…。いろいろありましたが、やっぱり信じてやって行こうと。その結果、ちゃんと仕組みが回るようになってきたと思います。

先ほどの旅する絵本♡の妄想の話がありましたが、今回、町田でスタートするに当たって、スタッフの一人も影の立役者として、飛び回っています。町田の場合、大きい本屋さんが何軒かあるのですが、そういったところにも協力や支援をいただけないか、駆け回ってくれています。こういった開拓先が開かれてくれれば、先ほどのドンハマ★さんの妄想へのスタートになるのではないかと考えています。

「なぜ町田は、一旦戻すことにしたのですか？」と質問についてですが、私たちは、地域の見える化に重きを置きたいと思っています。コロナの状況下で、「あまり情報が上がってこない」「逆に情報が多すぎる」といったことがあり、地域やコミュニティの必要性を強く感じまして、もっとつながりを強くするべきだと思いました。

旅する絵本♡がどこに渡っていったのかを公開することで自分がその地域の一員であると感じられるのではないかと思います。また「この本、読んだんだ」ということで参加者同士がどこかでつながるかもしれないし。そういうつながりがオープン（見える化）に出来ればいいなという想いで、一年で一旦戻すというシステムを組み込みたいと思っています。

（ドンハマ★）
私の絵本は、出たら出っ放しということでそこを管理するということは放棄してしまっていますが、町田のように一度戻ってくるという仕組みを新しく組み込むことは、とても大変なことだと思います。それでもそういった仕組みを用いて、地域のつながりを再構成しようという、より公共性の高い目的を加えて、旅する絵本♡を企画いただいたのが何より嬉しいです。絶対成功してもらいたいし、私に出来ることがあれば、なんでもします！

（いしいあや）
アプリ、良いなと思いました。ポイントがたまったら、お迎えした本の新品を購入することで、出版社や著者にもお金が回る仕組みになったら可能性もあるのかなと思いました。
北欧のある国では、図書館でも著作権料が発生していると聞きます（1 冊借りるといくら）。
出版社・著者の立場からすると、どうやったらキャッシュフローが健全に回るのかはとても大事です。例えば、印税だけで、著者さんにこれで食べられるようになりましたねと言えるところまで持って行くことは今はなかなか難しくて、カラオケで歌うと印税が入るというような仕組みが、絵本でも出来ればいいなということは、漠然としてですが、ずっと思っています。

（ドンハマ★）
これから、本を広めていくという点で、著作権ということと旅する絵本♡と関係してくる部分もあると思うし、旅する絵本♡に携わるすべての人たち、つまりステークホルダーすべての人たち、もちろん作家さんも含めてですが、みなさんがハッピーになってもらう、「ここに入ってよかったな」と思ってもらうことが大事だと思います。それは経済的な意味だけでなく、いろんな意味でハッピーになる循環の仕組みが大事ですね。

岩波さん、私たちは NPO でもなくて、そういうちゃっんとした組織ではないですが、もっとがっつり eumo さんともできたらなぁ~と思ったりします。

（岩波直樹）
本当に共感資本だなと思います。さっき出ていた通り、作家さんに eumo がギフトされる仕組みが出来たらおもしろいなと思います。（ドンハマ★反応：それいいな~。作家さんが使ったり広めてくれたり、eumo の絵本もできるかもしれないですね）そうですね。そして eumo が回って回って、帰ってくるというところまでの循環が出来たらむちゃくちゃ面白いと思います。ぜひ一緒に企みましょう~（笑）。
アプリの開発は、保守とかいろいろありますが、eumo の場合、クライドファンディングで開発費用が 1,000 万円ほど集まりました。ファンが増えてきたら、そういうことも可能性としてあると思います。

【ブレークアウトルームでの意見交換終了】

（ドンハマ★）
短い時間ではありましたが、各グループいろんな視点でお話ししていただいたと思います。本日は全国各地からお越しいただいており、本当に嬉しいです！時間の関係で 1 チームだけになりますが、シェアをいただこうと思います。
鵜飼さん、ご指名しても良いでしょうか？

（鵜飼）

来ると思ったんですよ（笑）
では、手短に発表させていただきます。朝日新聞のマーケティング部で SDGs のコミュニティ運営を行なっています。先日もドンハマ★さんに参加いただきましたが、イベントやラジオ放送「渋谷のラジオ」などの活動を行なっています。絵本好きです。（笑）

私のグループでは、手話の読み聞かせのワークショップをやっている方や、ニジノ絵本屋さんつながりで神戸の保育士の方、手話もやってますということで言えば、インクルーシブ×絵本ともつながりますね。あと、ドンハマ★さんのイベントにも何回か参加したことがあるという、大人の読み聞かせをやっている方などがいらっしゃいました。
実際、旅する絵本♡を体験してみて、大人も読み聞かせてもらうというのは、いい体験だなと感じている方もいらっしゃいました。

印象的だったのは、旅する絵本♡は、モノとしての本が伝わる以上に、そこにいろんな想いをのせて伝わっていくというのが素晴らしいなということ。あとは全体的な話ですが、まさかこれから文化を創ろうという、そこまでの野望を語られたというのが新鮮でしたというそんな感想でした。

私自身は、旅する絵本♡の活動自体のポテンシャルを感じて良いなと思います。メディアの視点で言えば、《自分から選んでいくこと・選ばされていくこと》があると思います。自分の好みに引っ張られて、どうしても視野が狭くなってしまうということはあると思います。しかし、信頼できる絵本好きの方からある日突然絵本が届くわけですが、あれ自分の好みとは違うんじゃないかと思いながらも読んでみれば、「こんな世界もあるんだな」という気づきになる、そういう体験はすばらしいことですし、情報摂取や世界を知るための手法として、重要だと思います。こういった手法が広がっていけば、セレンディピティが絵本を通じて起き、新たな世界認識が起きる…そういうポテンシャルが旅する絵本♡にはあると感じています。とても期待しています。

（ドンハマ★）

この間（「渋谷の SDGs」収録の時）、鵜飼さんにも旅する絵本♡を一冊持って帰っていただいたのですが、そうやっていろんな方々の世界が広がって行ってくれると私もうれしく思います。ありがとうございました。
では、イベントの最後になりますが、ゲストスピーカーの方々からコメントをいただきたいと思います。

（鈴木由香）
今日はありがとうございました。わかりやすく話すとか、プレゼンとか、実は苦手と思ってるんですね。ですので、熱い思いだけ伝われば良かったと思っています（笑）
町田のスタッフが二人ほど、イベントに入ってくれて、私もずうずうしくお願いしちゃったんですが、「絵本の寄付はどこにどのようにすればいいですか？」という質問をいただきましたので、回答は、ドンハマ★（えみラボ）さんを通して行ないます。（※本レポートの最後に記載あり）

eumo さんのお話しがとても刺激的でした。絵本でも「Life」という、モノを交換する物語ですが、そういう社会を実現できたらいいなと思いました。ありがとうございました。

（ドンハマ★）
町田での活動は、絵本が好きなだけではなく、地域の人と人とのつながりをもう一度結びなおす、というところがポイントだとおっしゃったんで、そこがすごく印象的でした。活動、応援しています。ありがとうございました。

（いしいあや）
町田の活動の話を聞いて、社会的処方という書籍に「リンクワーカー」と言う言葉があることを思い出しました。イギリスのしくみで、社会と人をつなぐ人ということですけど、「市民一人一人の活動が、誰かのクスリになったらいい」という考え方なんですね。そういう言葉とイメージがつながりました。

（ドンハマ★）
リンクワーカー良いですね。一人一人ができることは限られているけれど、その一人一人が何かのリンクワーカーになって行けば、社会全体が共感でつながることができそうで、それってやっぱりすばらしいなと思います。
ニジノ絵本屋さん、これからも応援しています。今日参加された方々にもファンの方がたくさんおられると思います。今日はありがとうございました。

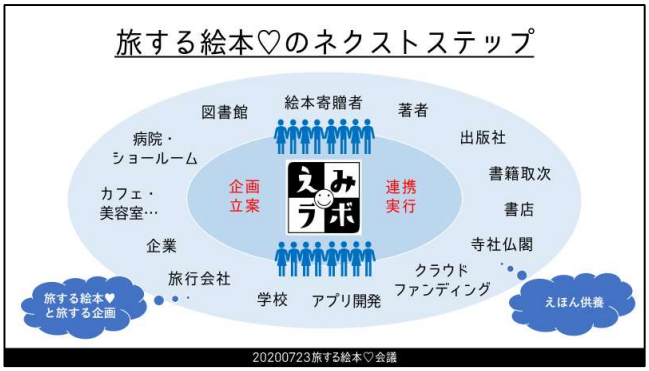
（岩波直樹）
みなさん、今日は、ありがとうございました。
ここにステキな人がたくさん集まって、まさにここに「共感資本」があるので、この資本があれば、いろんなことができるなと思いました。
ドンハマ★さんは、最初「自分の絵本を出すことに抵抗感があった」ということでしたが、自分が大事にしているモノは手放したくないものですが、手放すと戻ってくるものもあります。手放したモノが、手渡した相手から直接戻ってくるのではないんだけれども、いつか巡り巡って最後に戻ってきたとき、「ああ、こういうことだったんだ」と、何年も後に気づいたりします。私はこういう時に「生きている喜び」を感じます。それを旅する絵本♡は表

現しようとしている。eumo はお金というものの価値をそういうものに変えようとしているわけですね。
《囲い込むでは得られない喜び》があるということは、人生を通して人間は体験するべきだと思っていて、これを知るための手法を、みんな一生懸命いろんなところで考えているんですよ。旅する絵本♡もそうだし、eumo もそうだし。そういったことを少しづつ感じていくと、実は、社会全体が結果として良くなっちゃう、ということが起きると、本気でおもっています。本日は 80 人満席で参加してくれていますし、そういうことに共感している仲間が集まっていてくれること、それ自体が共感資本だと思っています。

旅する絵本♡と eumo で、著者さんに送るなど、いろんな連携を考えて行きたいと思っていますので、皆さんとそういう方向に向けてできることをどんどんやって行けたら良いなと思っています。本日はありがとうございました。

（ドンハマ★）
「所有する喜びから手渡す喜び」というと大げさかも知れませんが、いざ手放してみると、「なんであんなに所有にこだわっていたんだろう」と思いました。絵本を置く場所がない、断捨離できないという問題も解消されるし、良いことしかありませんでした。どうしても欲しければ、また買うことも出来ます。手放して初めてわかることもあると私も感じました。

【まとめ】
最後にまとめとして、1 枚のスライドをお見せしていきたいと思います。



本日は、絵本が旅をすることで、共感の文化を創り出そう話をしてきました。ネクストステップとして、旅する絵本♡を前進させていくには、いろんな方々がかかわってくるとおもいます。ここにあるのは思い付いた方々を書き出しただけですが、出版社・書店さん・著者さん・寄贈してくれる人や図書館・提供される一般企業・公共施設など…クラウドファンディングも考えなければと思っています。
こういったステークホルダーがみんなハッピーになって、「これにかかわってよかったね」と、今まで経験することができなかったプラスやハッピーや well-being がここに起きることが大事だと考えます。
例えば旅行会社であれば、旅する絵本♡と一緒に人が旅をする企画などもあると思いますし、旅をし過ぎてクタクタになった絵本もありますので、それらを供養する仕組みもあっても良いのかな、とも思っています。

こういった企画を立案・連携を進めてくれる人たちが、まだまだたくさん必要です。そういうメンバーと新しいプロジェクトとして立ち上げるかも知れません。実際にいらっしゃれば、どんどん連携していきたいなと思っていますので、ぜひお声がけいただきたいと思います。

今回は 80 名以上の、たくさんの方々にご参加いただきました。予想を大きく上回わる規模になり、本当にありがたく思っております。改めて感謝申し上げます。

（MC）
本日は本当にありがとうございました。
ご参加いただきました皆様には、後程アンケートをお送りさせていただきます。旅する絵本♡を一緒に盛り上げていきたいという方は、そのアンケートにご記入いただけますので、ご協力をお願いします。
これにて、旅する絵本♡会議を終了とさせていただきます。またの機会にお会いできればと思います。ありがとうございました。

（ドンハマ★）
ご参加いただいたみなさん、協力いただいたゲストスピーカーのみなさん、スタッフおよび協力者のみなさん、本当にありがとうございました。

※参考【まちだ旅する絵本 寄贈先】
〒194-0022 東京都町田市森野 1-15-13
町田パリオ　管理事務所　まちだ旅する絵本係
TEL 042-725-3710

※このレポート全般についてのお問い合わせは、えほん未来ラボ（えみラボ）まで
ehon.mirai.lab@gmail.com